

鹿児島市立美術館 Kagoshima City Museum of Art

開館70周年記念

鹿児島市立美術館と17人の作家たち

Kagoshima City Museum of Art and 17 Artists

2024.11.14 THU - 2025.1.26 SUN

開館時間 9:30 - 18:00 (入館は17:30まで)
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日※11月5日は臨時開館、12月29日~1月1日)
 観覧料 一般300円、高大生200円、小中生150円
 ※ 観覧料は所蔵品展と共通。年間パスポートでもご覧いただけます。
 ※ 毎月第3日曜日は小・中学生の所蔵品展・小企画展の観覧料が無料です。

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36 TEL.099-224-3400
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/>

鹿児島市立美術館開館70周年記念 鹿児島市立美術館と17人の作家たち

2024 11/14 (木) ~ 2025 1/26 (日)

鹿児島市立美術館は、黒田清輝の顕彰を第一義として創設されました。黒田清輝は、日本洋画界の牽引者であり、その没後に彼の偉業を称えるために、鹿児島市立美術館が昭和29年に開館しました。開館後も、多くの美術作家たちが、この美術館の運営に関わってきました。作家たちは展示作品の提供のみならず、美術館の文化活動や教育活動の支援にも尽力し、地域の芸術振興に大きく影響を与えてきました。鹿児島市立美術館は、こうした芸術家たちとの協力のもと、70年にわたり美術文化を支え続けてきました。

今回の小企画展は、市立美術館と直接かかわりのあった作家たちを、彼らの作品とともに紹介するものです。美術館の歴史と共に歩んできた作家たちの名品をお楽しみ下さい。

2024年 冬号 No.31

市美だより

鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館
 〒892-0853
 鹿児島市城山町4番36号
 TEL(099)224-3400

あなたとわくわく
 マグマシティ 鹿児島市

無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展 + 小企画展を無料で鑑賞いただけます。

1月19日(日)
 2月16日(日)

冬の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：画家と似顔絵 会期：2月16日(日)まで

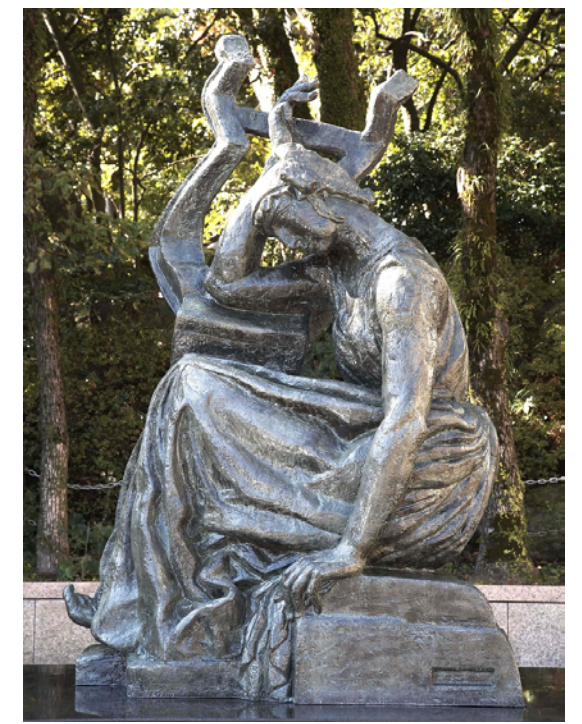
当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして20世紀を中心とした西洋美術の流れをたどる作品をご覧いただけます。今回は、2025年のNHK大河ドラマで江戸時代後期に活躍した版元・蔦屋重三郎の生涯が紹介されることにちなんで当館所蔵品の中から似顔絵をご紹介します。似顔絵は人物の個性をとくに誇張も交えて描いた肖像画ですが、日本語の「似顔絵」は、江戸時代に流行した浮世絵のうち個人の特徴をとらえた役者絵や美人画の呼称が語源となったそうです。江戸時代後期の出版文化の盛り上がりにもない、浮世絵は木版画として様々な版元から出版され、版元は出版物の企画から制作、販売までを取り仕切り、ときに新人作家を発掘して人気作家へと育てました。なかでも蔦屋重三郎は、奇抜な役者絵を描き話題を呼んだ東洲斎写楽を世に送り出すなど、江戸出版界のヒットメーカーとして活躍しました。

ここに紹介する浮世絵は、大正時代に橋口五葉が復刻し『浮世風俗やまと錦絵』として出版したものです。復刻にあたりサイズを縮小していますが、その他はオリジナル作品に忠実に再現されています。

また、西洋作家の描いた似顔絵としてマリノ・マリーニの作品をご紹介します。イタリアの彫刻家として名高いマリーニですが、画家としての顔も持ち、数多く制作した著名人の肖像彫刻とリンクするように優れた似顔絵も残しています。人物の印象を素早く的確に描き出したそれらの作品からは、作者の鋭い観察眼を感じ取ることができます。展示作品は、マリーニの油彩画、素描などのオリジナル作品を、1968年にリトグラフの技法で複製し版画集として出版したものです。



橋口五葉復刻
 東洲斎写楽 《大谷鬼次》



《ピックアップ》所蔵品紹介

エミール=アントワーヌ・ブールデル 《サッフォー》1925年
 ブロンズ、高208.0×幅138.0×奥行85.0cm

秋らしい気候を楽しめる時期になりました。美術館の前庭にある木々も落葉・紅葉し、季節の移ろいを感じさせます。前庭には三つの彫刻があることをご存知でしょうか？今回はその一つ、ブールデルの作品を紹介します。

彼は近代彫刻を代表する巨匠ロダンの助手を長年務めました。ロダンの大胆な構成力や力強い表現力を受け継ぎつつ、量感のある建築的な作風を

確立しました。本作もピラミッドのように安定した構造を基本としながら、三角形を描く人物の右腕や竖琴の造形に構築的な表現が見られます。

サッフォーは紀元前7世紀頃のギリシャの詩人で、情熱的で哀愁に満ちた歌を奏でたといわれます。物憂げな表情と重厚な雰囲気とが相まって、古代の詩人の姿が見事に表されています。

像の背面下部には1887と1925の二つの年号が刻まれています。これは1887年に構想が始まり、1925年によりやく完成した、38年もの長い制作の時間が記録として残されているものです。